



日本赤十字社 和歌山医療センター

Japanese Red Cross Society

医療連携だより

冬号

No.88



和歌山市小松原通四丁目20番地 (発行責任者)
TEL : 0120-965-582 (医療連携課) 管理局長 内田 一彦
FAX : 0120-937-510 (医療連携課) e-mail : renkei@wakayama-med.jrc.or.jp



新年のご挨拶

院長 山下幸孝



能登半島地震で被災された方々に、お見舞い申し上げます。

赤十字の使命である災害医療救援活動に当医療センターも、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

昨年の医療界で最も大きかった出来事は新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に変更された事でしょう。つまり今までは国が面倒をみていたが、これからは現場でどうにか対応しなさい、ということになりました。確かに当初に比べると死亡率は下がりましたが、感染力は相変わらずで、高度な感染対策は継続的に実施しなければなりません。2類相当の頃にあった医療人を応援する機運もいつの間にか忘れ去られ、財務省に至ってはお金を使いすぎたので返せとでも言わんばかりの勢いです。実際に国立病院機構(NHO)や地域医療機能推進機構(JCHO)は補助金を取り上げられています。

ただ世界に目を向けると新型コロナ感染症はその昔に通常の疾患扱いとなっています。それよりもはるかに大きな問題、非人道的な事件が起こっています。先の見えないロシアのウクライナ侵略戦争やイスラエルのガザ攻撃には暗澹たる思いです。我々医療人が1人の生命を如何に守るか苦心している間に大量殺戮が平然と行われているのです。国際的な機関はありますが、大国の暴挙を止めることはこの現代においても誰も出来ないと言うことは本当に悲しいことです。

その中で数少ない明るい話題だったのはWBC

の優勝でしょうか。

国粹主義者と言う訳でもないのですが、日本人が活躍するとやはり嬉しいものです。10年1000億円という契約にも、大部分が後払いと言うことにも驚かされました。もう一つ、国内のアレのアレも嬉しい出来事でしたが、これは虎党以外にはあまり良い話ではないですね。

さて、2024年とはどのような年になるのでしょうか。賃金低迷、円安、国債の膨大化、社会保障費増大の為の増税、少子高齢化による労働力の低下等、何も解決していません。政府の異次元の少子高齢化対策や減税案等、本当に有効であれば良いのにと願うことしか出来ません。

医療分野では6年に1度の医療・介護・障害福祉サービス等報酬の「トリプル改定」の年です。

財務省の、「診療報酬が増額となれば利用者の窓口負担や公的医療保険の保険料が上がり、国民の負担増につながる」との言い分は分からなくもないのですが、だから医療関係者は耐えろと言われても簡単に納得するのは難しいでしょう。我々医療人が第一義的に考えている事は、まずは地域医療を守りたい、住民の健康を守りたい、ですが、やりがい搾取は許されたいでしょう。

2024年こそ明るい年になることを願いつつ、地域の安心・安全な医療体制の充実をはかることを考えながら、今年も互いに助け合って頑張っていきたいと思います。

最後に、先生方におかれましても良き年になりますよう祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。



がんセンター通信 12

(脳腫瘍ユニット)

脳神経外科部長

津浦 光晴



がんセンター
Cancer Center

当センターの脳腫瘍ユニットでは脳神経外科医と放射線治療科医が連携し、脳腫瘍の確定診断、進行度の評価、患者さんの状態評価、治療方針の決定を行います。

転移性脳腫瘍（脳転移）の場合は原発巣の担当科と協力し全身の画像検査（PET-CT、MRI等）によりがんの進行度、全身状態を評価し、脳転移の数と部位、サイズに応じて摘出術あるいは定位放射線治療、全脳照射のどれが適切か決定します。当センターでは脳腫瘍の手術において、最新のナビゲーションシステムやハイブリッド手術室を用いてより正確で安全性の高い摘出術を行っております。放射線治療は特に患者さんへの負担が少ない低侵襲治療を心掛けており、3 cm 未満の脳転

移では定位放射線治療を第一選択に考えています。

ご高齢の方や合併症などで手術ができない場合でも、手術とほぼ同等な腫瘍のコントロールが可能です。治療後は定期的にフォローし、再発や新規病変が出現した場合には適切な治療を検討し、急な症状の変化に対しては夜間、休日でも対応できるように救急医療体制を整えております。

脳神経外科医、放射線治療科医、各領域の専門医が緊密に連携し、患者さんに十分な説明を行い、日常生活の質（QOL）を可能な限り維持していくことを目標にしております。もし脳腫瘍、脳転移の患者さんでお困りのことがあれば、ぜひご紹介をお願いいたします。

令和5年度 診療科別合同セミナー・講演会実施一覧

当センターでは、各種講演会を実施しています。随時ご案内しますので是非ご参加ください。

日時	診療科	会合・講演会名	場所	参加人数 (合計)
11月7日(火)	腎臓内科	和歌山市のCKD地域連携に関する意見交換会	WEB 配信	5名
11月9日(木)	がんセンター	がんゲノム医療 Web セミナー	WEB 配信	70名
11月16日(木)	整形外科	令和5年度第2回大腿骨頸部・転子部骨折地域連携パス合同カンファレンス	WEB 配信	58名
11月17日(金)	脳神経内科	頭痛診療 Up To Date	WEB 配信	13名
11月24日(金)	循環器内科	和歌山心不全 Web セミナー	WEB 配信	28名
11月30日(木)	がんセンター 呼吸器内科	呼吸器疾患カンファレンス	WEB 配信	16名
12月1日(金)	腎臓内科	日常診療に潜む Fabry 病 — 早期診断の重要性 —	WEB 配信	16名
12月7日(木)	小児科	小児科地域連携講演会	WEB 配信	20名
12月8日(金)	腎臓内科	第2回腎代替療法施設連携の会 (ハイブリッド)	日本赤十字社 和歌山医療センター	42名
12月13日(水)	循環器内科 糖尿病・内分泌内科	GLP-1 Crosstalk Web Seminar (ハイブリッド)	日本赤十字社 和歌山医療センター	38名



医療連携(患者紹介)に関するアンケートについて

医療連携総合支援センター長 中 大 輔

平素は、当センターの運営に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当センターでは、国の掲げる「医療機能の分担及び業務の連携」の方針に則り、急性期医療を終え、症状の安定した患者様については地域医療連携（医療機関MAP検索）システム「メディマップ」を用いて、地域の先生方へのご紹介を推進しています。

昨年末には患者様の様々なご希望に対応するため、ネットワーク会員の先生在籍の施設様に施設情報のアンケートを実施させていただきました。

ご提供いただいた情報を基に、更なる地域連携強化を図る所存ですので、ご回答が未だの施設様で、ご協力いただけるようであれば下記のURLにアクセスいただき、ご回答いただけますと幸いです。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

●Webにてご回答

下記URL（Google フォーム）にアクセスし、回答に記入後送信をお願いします。

ヒアリングシートURL

<https://forms.gle/ahXP3a73nymCJbR39>



●PR文、写真の掲載も可能となっております。

項目内にPR文の記載をお願いします。

写真の掲載（2枚まで）は、指定のメールアドレスに添付し送信をお願いします。

【お問合せ先】日本赤十字社和歌山医療センター 医療社会事業部医療連携課
TEL 0120-965-582 FAX 0120-937-510



就任のお知らせ

11月1日付

麻酔科部 中松和海（専攻医）

上記の職員が新たに就任いたしました。
よろしくお願いいたします。

退職のお知らせ

10月31日付

耳鼻咽喉科部 西村一成（副部長）
麻酔科部 齋藤舞（医師）
麻酔科部 中村安寿左（専攻医）

12月31日付

小児科部 原茂登（副部長）
眼科部 三木敏耶（副部長）
産婦人科部 西松謙一（専攻医）
救急科・集中治療部 大西勇翔（専攻医）

上記の職員が退職いたしました。
大変お世話になりました。

紹介初診患者診察担当医師表

2024年1月1日現在

診療科名	月	火	水	木	金
循環器内科	部長 豊福 守 医長 伊勢田 高寛 —	副部長 田崎 淳一 医長 辻 修平 《末梢血管外来》	医長 伊勢田 高寛 医長 辻 修平 —	医長 辰島 正二郎 — —	医長 藤田 啓誠 《末梢血管外来》 —
消化器内科	院長 山下 幸孝 部長 赤松 拓司 副部長 瀬田 剛史 副部長 松本 久和 塙 悠佑 上野 昌太郎	主任部長 上野山 義人 副部長 中谷 泰樹 医長 小西 隆文 中野 省吾 筑後 英紀 —	副部長 瀬田 剛史 副部長 岩上 裕吉 下山 雅之 外村 晃平 押川 大介 —	部長 赤松 拓司 副部長 松本 久和 医長 小西 隆文 松山 和輝 脇田 碧 曾根 明日香	主任部長 上野山 義人 副部長 中谷 泰樹 副部長 岩上 裕吉 荻野 真也 中野 省吾 佐藤 雄
糖尿病・内分泌内科	《交替制》	副部長 廣島 知直	《交替制》	部長 金子 至寿佳	副部長 稲葉 秀文
※血液内科	—	赤木 佑衣奈	部長 岡 智子	—	—
消化器外科	副部長 辰林 太一 医長 山田 真規 医長 野間 淳之	副部長 奥村 公一 医長 金井 理紗 青山 諒平	副部長 一宮 正人 副部長 横山 智至 副部長 宮本 匠	部長 山下 好人 副部長 川添 准矢 寺脇 平真	主任部長 安近 健太郎 部長 伊東 大輔 佐倉 悠介
※乳腺外科	副部長 鳥井 雅恵 —	—	部長 松谷 泰男 —	副部長 鳥井 雅恵 松本 純明	部長 松谷 泰男 —
小児外科	—	医長 金井 理紗	副部長 横山 智至	—	—
※眼科	医長 川島 祐 川島 京子	吉村 昭人 《交替制》	部長 荻野 顕 —	医長 原田 康平 《交替制》	部長 荻野 顕 —
耳鼻咽喉科	部長 三浦 誠 —	副部長 曉 久美子 —	部長 三浦 誠 —	副部長 曉 久美子(隔週) 森田 勲(隔週)	副部長 辻村 隆司 —
産婦人科	副部長 山西 優紀大(第1・3・5) 副部長 山村 省吾(第2・4)	副部長 豊福 彰(第1・3・5) 医長 日野 麻世(第2・4)	副部長 寒河江 悠介(第1・3・5) 春日 摩耶(第2・4)	副部長 坂田 精美(第1・3・5) 副部長 横山 玲子(第2・4)	副院長 吉田 隆昭 —
小児科	部長 徳田 光和 副部長 杉峰 啓憲	副部長 深尾 大輔 坂部 匡彦	副部長 横山 宏司 薬王 俊成	部長 徳田 光和 副部長 杉峰 啓憲	坂部 匡彦 前田 啓祐
泌尿器科	部長 玉置 雅弘 副部長 中嶋 正和 碓 達也	主任部長 伊藤 哲之 副部長 中嶋 正和 副部長 吉川 和朗	高橋 俊文(第1.3週) 副部長 吉川 和朗(第2.4.5週) —	部長 玉置 雅弘 医長 山田 祐也 高橋 俊文	主任部長 伊藤 哲之 医長 山田 祐也 丸野 皓平
腎臓内科	医長 嘉藤 光歩 棚尾 明 小西 諒	部長 東 義人 医長 嘉藤 光歩 児玉 健志	副部長 杉谷 盛太 医長 小緑 翔太 —	部長 東 義人 前沢 浩司 —	副部長 杉谷 盛太 大森 翔平 —
皮膚科	改正 純一	加山 孝樹	《交替制》	医長 大橋 理加	部長 米井 希
整形外科	部長 玉置 康之 副部長 田中 慶尚	副部長 田中 康之 医長 小椋 隆宏 —	副部長 田中 慶尚 副部長 古川 剛 木村 真大	部長 玉置 康之 医長 小椋 隆宏 前川 尚大	副部長 田中 康之 副部長 古川 剛 —
歯科口腔外科	—	副部長 清水 航治 医長 佐武 明日香	部長 平石 幸裕 —	副部長 清水 航治 —	部長 平石 幸裕(第1.3.5週) —
※放射線治療科	副部長 小倉 健吾 —	部長 根来 慶春 立石 雄大	—	部長 根来 慶春 —	副部長 小倉 健吾 立石 雄大
脳神経外科	《交替制》 部長 津浦 光晴	副部長 武本 英樹 —	《交替制》 —	部長 津浦 光晴 《脳血管内治療専門外来》	—
※麻酔科	—	副部長 吉村 聖子	医長 宮崎 里紗	—	副部長 片岩 真依子
呼吸器内科	副院長 杉田 孝和 —	副部長 阪森 優一 《睡眠時無呼吸専門外来》	河内 寛明 濱田 健太郎	部長 池上 達義 —	副部長 寺下 聡 —
心臓血管外科	部長 金光 尚樹 —	—	部長 金光 尚樹 《静脈瘤外来》	—	—
※脳神経内科	部長 山下 博史 湯川 佳代子 山中 治郎(隔週) 安達 智美(隔週)	大原 寛明 孝橋 睦生(隔週) 成宮 悠爾(隔週) —	部長 山下 博史 中村 大和(隔週) 河村 祐貴(隔週) —	山田 健 木下 久徳 — —	大原 寛明 平田 真也(隔週) 平山 典宏(隔週) —
※精神科	部長 東 睦広 杉村 智加	—	—	部長 東 睦広 杉村 智加	—
形成外科	《小児形成外科外来》	部長 奥村 慶之	成山 晃弘 —	—	成山 晃弘 —
呼吸器外科	—	部長 石川 将史	副部長 池田 政樹	—	部長 石川 将史
※心療内科	—	部長 阿部 哲也	—	—	部長 阿部 哲也
※リウマチ科 (非常勤医師)	秋月 修治(第1・2・4・5) 中島 友也(第2・4)	岡本 翔太 松宮 遼	船越 莊平 納田 安啓	—	別役 翼 福村 麻綾(第1.3.5週)
※漢方内科	—	—	部長 山田 伸	—	—
感染症内科	《交替制》	《交替制》	《交替制》	《交替制》	《交替制》
※緩和ケア内科(午後)	部長 一宮 正人 筒井 一成	吉村 聖子 —	宇山 志朗 —	部長 一宮 正人 —	阿部 哲也 —
※腫瘍内科	—	—	—	川上 尚人	—
※遺伝性腫瘍ユニット	—	—	副部長 豊福 彰(午後)	川上 尚人	—

赤字…女性医師 ※…完全予約制(当日初診で紹介いただく場合は事前にご相談ください。)

はがんセンターユニット担当医師(がん診療以外も対応させていただきます。)